

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 IDEAL0002	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/15975	国際出願日 (日.月.年) 12.12.2003	優先日 (日.月.年) 12.12.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C17 H01L31/08, H01L29/06, G01D21/02, G01J1/02		
出願人（氏名又は名称） 株式会社イデアルスター		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 7 ページからなる。

この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対して訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I 国際予備審査報告の基礎
- II 優先権
- III 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV 発明の単一性の欠如
- V PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ある種の引用文献
- VII 国際出願の不備
- VIII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 12.07.2004	国際予備審査報告を作成した日 26.01.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 浜田 聖司 印 電話番号 03-3581-1101 内線 3253
	2K 9207

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。PCT規則70.16, 70.17)

 出願時の国際出願書類

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの
明細書	第 _____	ページ、	国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書	第 _____	ページ、	付の書簡と共に提出されたもの
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項、	出願時に提出されたもの
請求の範囲	第 _____	項、	PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲	第 _____	項、	国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲	第 _____	項、	付の書簡と共に提出されたもの
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図、	出願時に提出されたもの
図面	第 _____	ページ/図、	国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面	第 _____	ページ/図、	付の書簡と共に提出されたもの
<input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
 PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

この国際出願に含まれる書面による配列表
 この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された書面による配列表
 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

III. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

国際出願全体

請求の範囲 4-5, 7-16, 19-26

理由：

この国際出願又は請求の範囲 _____ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 8-16, 19-26 の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

(1) 請求の範囲 8-16、19、23-26について、第VII欄を参照。
(2) 請求の範囲 20-22については、第VII欄を参照。

全部の請求の範囲又は請求の範囲 4-5, 7 が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

請求の範囲 4-5, 7, 20-22 について、国際調査報告が作成されていない。

2. ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、有効な国際予備審査をすることができない。

書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

IV. 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- 請求の範囲を減縮した。
- 追加手数料を納付した。
- 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- 満足する。
- 以下の理由により満足しない。

(1) 線状体の端面に受容部（受光素子）を設けたセンサデバイスは、後述のように、本願の優先日における技術水準に属することが明らかであることから、請求の範囲1は新規性はないと考えられる。

(2) そして、請求の範囲1に従属する請求の範囲2-3、6の発明は、それぞれ検出対象となる物理量が異なる端面センサデバイスであり、それぞれ別発明である。

また、請求の範囲8-9は端面センサデバイスの受容部に導電性高分子を用いた発明、請求の範囲10-11は端面センサデバイスに回路を設けた発明であり、これらもそれぞれ別発明である。

さらに、請求の範囲12-16は端面センサデバイスの導電性領域と絶縁領域に係る構造、請求の範囲17-18は束状に端面センサデバイスを製造する方法、請求の範囲19、23-26は電圧を印加しながら端面に膜を形成するセンサデバイスの製造方法であり、これらもそれぞれ別発明である。

4. したがって、この国際予備審査報告書を作成するに際して、国際出願の次の部分を、国際予備審査の対象にした。

- すべての部分
- 請求の範囲 1-3, 6, 17-18 に関する部分

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条 (PCT35条(2)) に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲	有
請求の範囲	無

1 - 3, 6, 17 - 18

進歩性 (I S)

請求の範囲	有
請求の範囲	無

1 - 3, 6, 17 - 18

産業上の利用可能性 (I A)

請求の範囲	有
請求の範囲	無

1 - 3, 6, 17 - 18

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: J P 2 0 0 0 - 2 9 2 2 8 7 A (株式会社トキメック)

文献2: J P 9 - 2 4 3 4 1 5 A (三菱電線工業株式会社)

文献3: J P 3 - 1 8 8 3 0 3 A (富士通株式会社)

(1) 文献1には、複数の光ファイバ108の先端にセンサ部110を設けた、圧力温度測定装置が開示されている。文献2には、光ファイバ1の先端部に形状記憶合金膜などからなるセンサを設けた、温度・圧力センサが開示されている。また、文献3には、透明光ファイバ8の端部に受光素子10などを設けた、発光位置検出装置が開示されている。

(2) したがって、請求の範囲1-3、6、17-18は、文献1ないし文献3から新規性ないし進歩性はない。

VII. 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

(1) 請求の範囲 20-22について、引用する請求の範囲との対応が不明瞭である。

VIII. 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付けについての意見を次に示す。

- (1) 請求の範囲 8-9、12-16について、端面に導電性高分子を用いることにより、これがどのようにして光センサ、超音波センサとして機能するのかが明らかではないことから、当業者に実施可能な程度に発明が開示されているとはいえない、また、十分な裏付けがされているともいえない（PCT第5条及び第6条）。
- (2) 請求の範囲 10-11について、「回路素子」が何を意味するのかが不明瞭であり、また、同回路素子が形成された線状体と端面に受容部形成されたセンサデバイスとがどのように関連するかも不明である。
- (3) 請求の範囲 19、23-26について、「一対の電極」は線状体にどのように設けられるのか、線状体の端面に形成される「膜」とは何を意味するのか、などが明確でなく、また、「端面センサデバイス」の具体的構造も規定されていない。